山陰のお米（ごはん）事情に関する調査

2026年10月26日

山陰合同銀行 地域振興部
産業調査グループ

ごうぎん

【　目　次　】

１．調査概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P3

２．山陰地域の特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・P4～10

３．年代別の特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P11～14

４．世帯構成別の特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・P15～19

５．全体・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P20～26

【調査要領】
①調査時期　：2026年8月19日～9月2日
②調査方法　：WEB等によるアンケート方式
③調査対象　：中国地方5県、東京都、兵庫県、大阪府在住の当行サービス利用者
④回収数　　：6,049（鳥取県2,184、島根県2,962、その他903）

１．調査概要

１．調査概要

【調査の目的】

近年、米不足や価格高騰など、お米を取り巻く環境が変化するなか、山陰地域におけるお米の食習慣や消費動向などを調査することで、地域のお米をめぐる実情把握や農業振興の一助とする

【調査の結果】

■ 山陰地域全体の特徴

- 「ほとんど毎食」お米を食べる方が他地域と比較して多い。
- 主な購入・入手先として「生産者から直接購入」する方が比較的多く、米を買うときには「県内産であること」を重視する方が比較的多い。
- 「令和のコメ騒動」当時、購買行動に「変化はあった」との回答は約４割で他地域と同水準であり、大きな差異は見られなかった。
- 米５kgの適正価格は「2,000円以下」との回答が他地域と比較して多い。

■山陰地域における年代別、子育て世帯の特徴

- 「ほとんど毎食」お米を食べるとの回答が最も多いのは３０代であり、年齢が高くなるにつれて、米を食べる頻度が少なくなる傾向がある。
- 若年者層は量と価格を重視、高齢者層は県内産と生産者が特定できることを重視する傾向がある。
- 子どもが多い世帯ほど、米を食べる頻度が多くなる傾向がある。
- 子育て世帯において、「令和のコメ騒動」による顕著な影響は見られないが、子どもが多い世帯ほど、備蓄米を購入する割合が多い傾向があった。

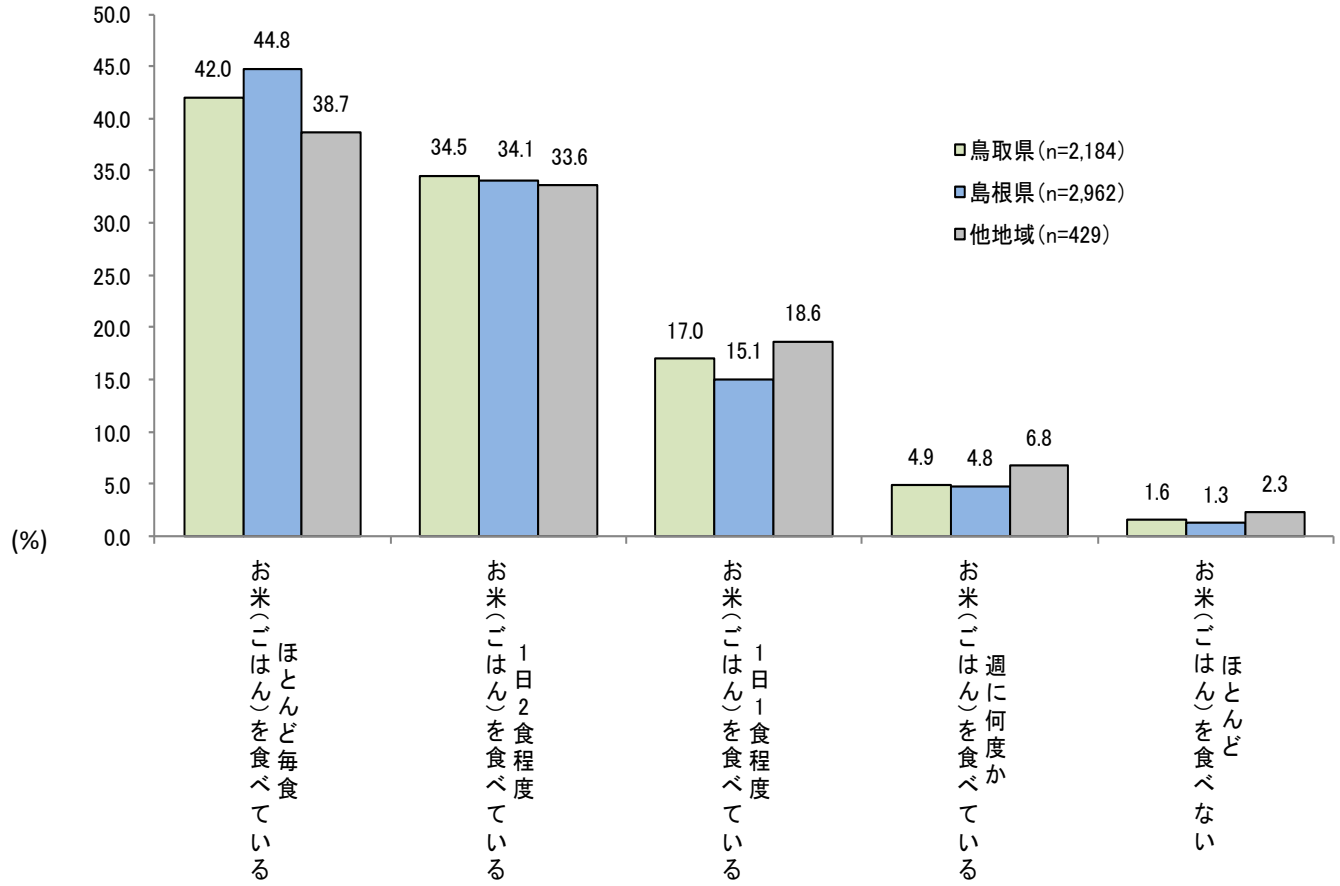
２．山陰地域の特徴

２－１．お米（ごはん）を食べる頻度

～山陰両県は米を食べる頻度が多い～

- 米を食べる頻度について、山陰両県と他地域*とを比較したところ、「ほとんど毎食」「１日２食程度」が他地域よりも多く、「１日１食程度」や「週に何度か」が他地域よりも少ない傾向にあった。

図表２－１．あなたの食生活のうち、お米（ごはん）を食べる頻度はどのくらいですか。
【山陰両県と他地域との比較】



注１：具体的には、東京都、大阪府、兵庫県、岡山県、広島県。以下、同じ。

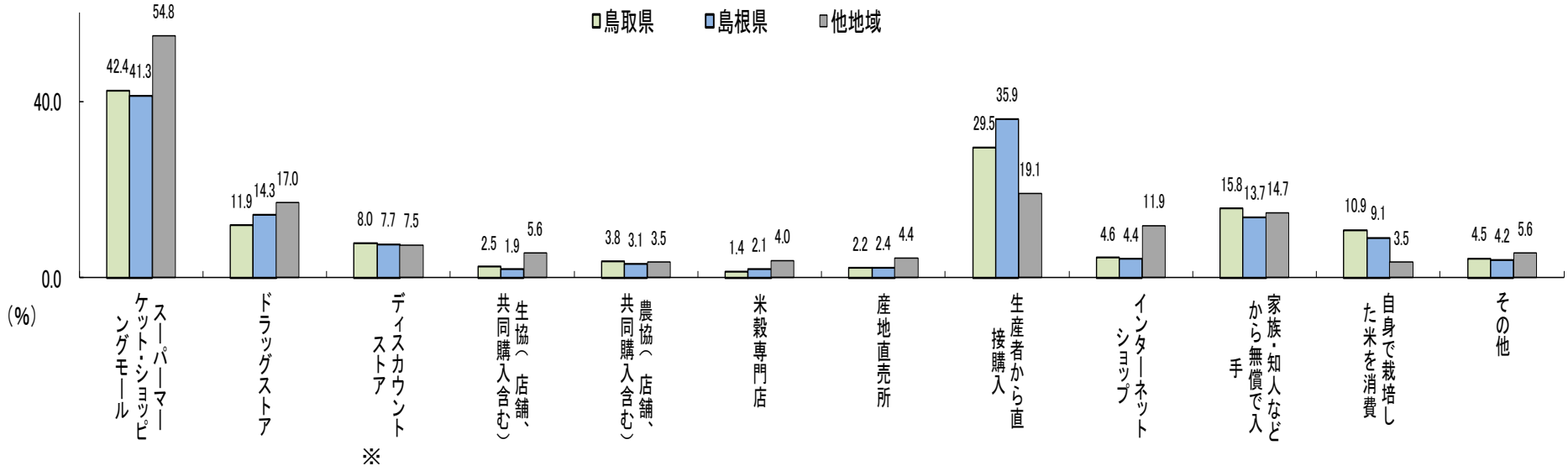
２：四捨五入の関係から合計が100.0%にならないことがある。以下、同じ。

２－２．お米の購入・入手先

～山陰両県は生産者から直接購入する方が多い～

- 購入・入手先をみると、「生産者から直接購入」の回答が鳥取県で29.5%、島根県で35.9%、他地域で19.1%となり、山陰両県で顕著に割合が高かった。
- また、「スーパーマーケット・ショッピングモール」や「インターネットショップ」を使った購入方法は他地域の方が顕著に割合が高かった。

図表２－２．普段どのようにお米を購入・入手していますか。（複数回答）
【山陰両県と他地域との比較】



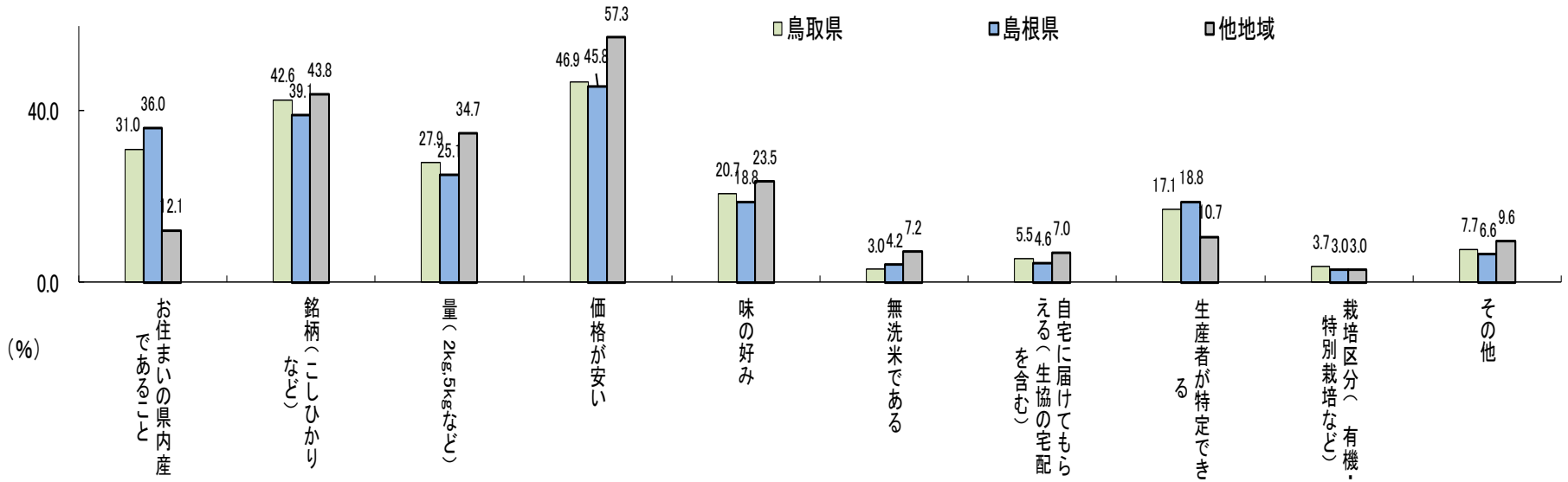
注：製造元から直接買い付けたり経費を削減したりして、通常価格よりも安く商品を売る店。

２－３．お米を買うときに重視すること

～山陰両県は県内産であることを重視する方が多い～

- お米を買うときに重視する点について比べたところ、「お住まいの県内産であること」を重視する回答が鳥取県で31.0%、島根県で36.0%、他地域で12.1%と山陰両県で顕著に割合が高かった。

図表２－３．お米を買うときに重視することを教えてください。（複数回答）
【山陰両県と他地域との比較】

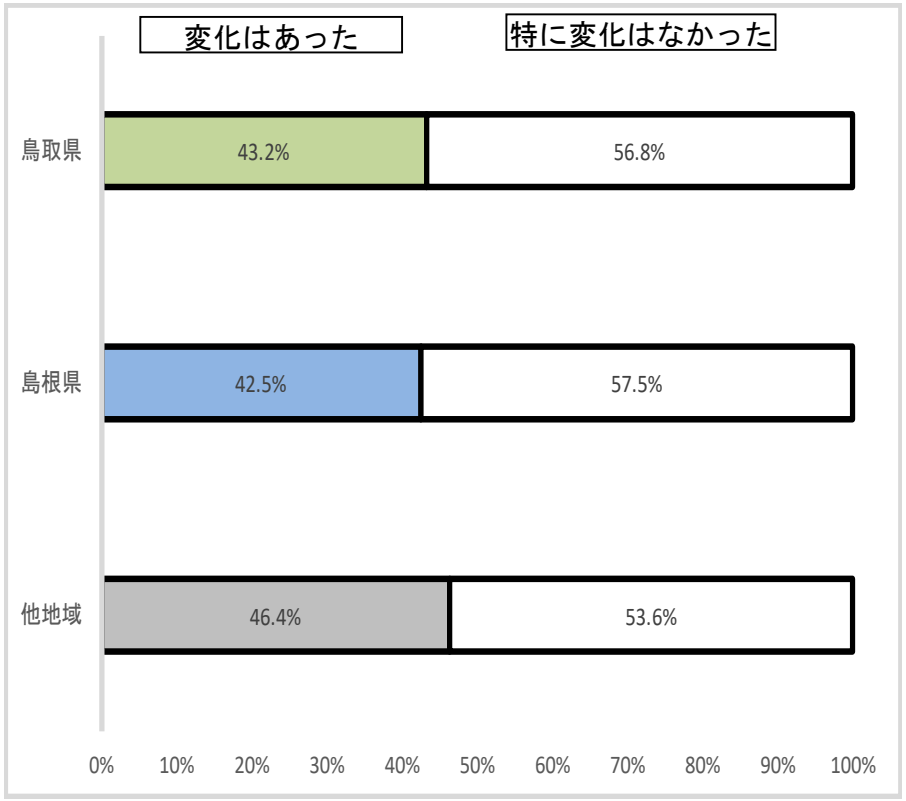


２－４．「令和のコメ騒動」の影響①

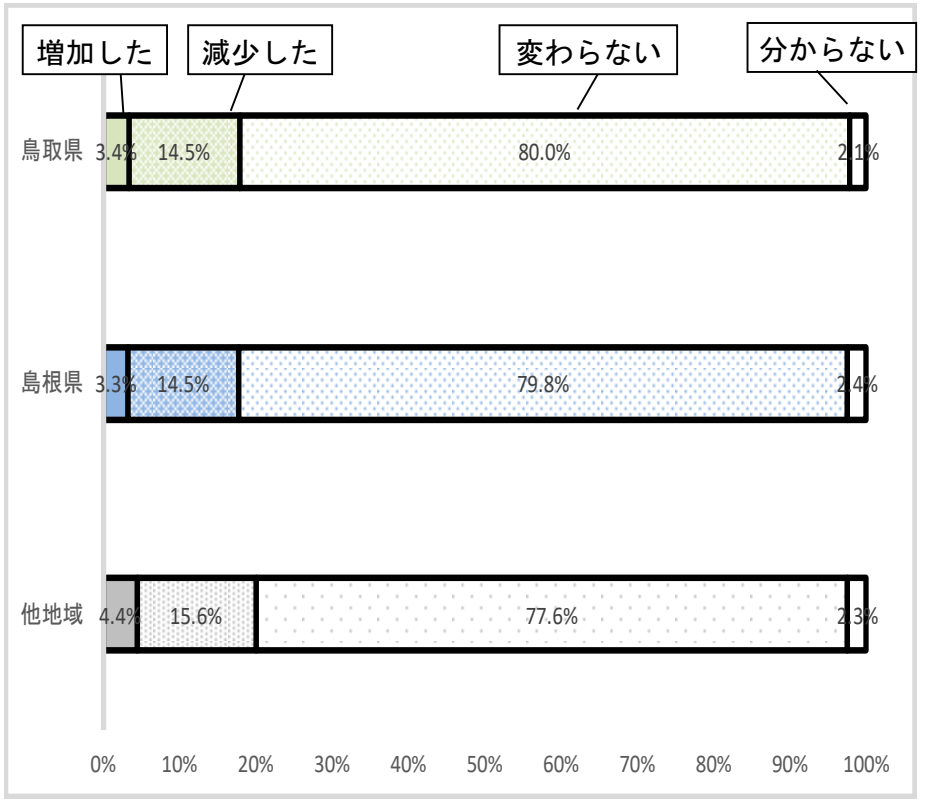
～山陰両県と他地域で大きな差異は見られない～

- 「令和のコメ騒動」当時の米の購買行動の変化について比べたところ、「変化はあった」と答える方が山陰両県・他地域ともに約４割となり、大きな差異は見られなかった。
- 「令和のコメ騒動」の影響による米を食べる頻度の変化について比べたところ、「変わらない」と答える方が山陰両県・他地域ともに約８割となり、こちらも大きな差異は見られなかった。

図表２－４．「令和のコメ騒動」当時、米の購買行動に変化はありましたか。
【山陰両県と他地域との比較】



図表２－５．「令和のコメ騒動」の経験を経て、現在お米を食べる頻度が変化しましたか。
【山陰両県と他地域との比較】

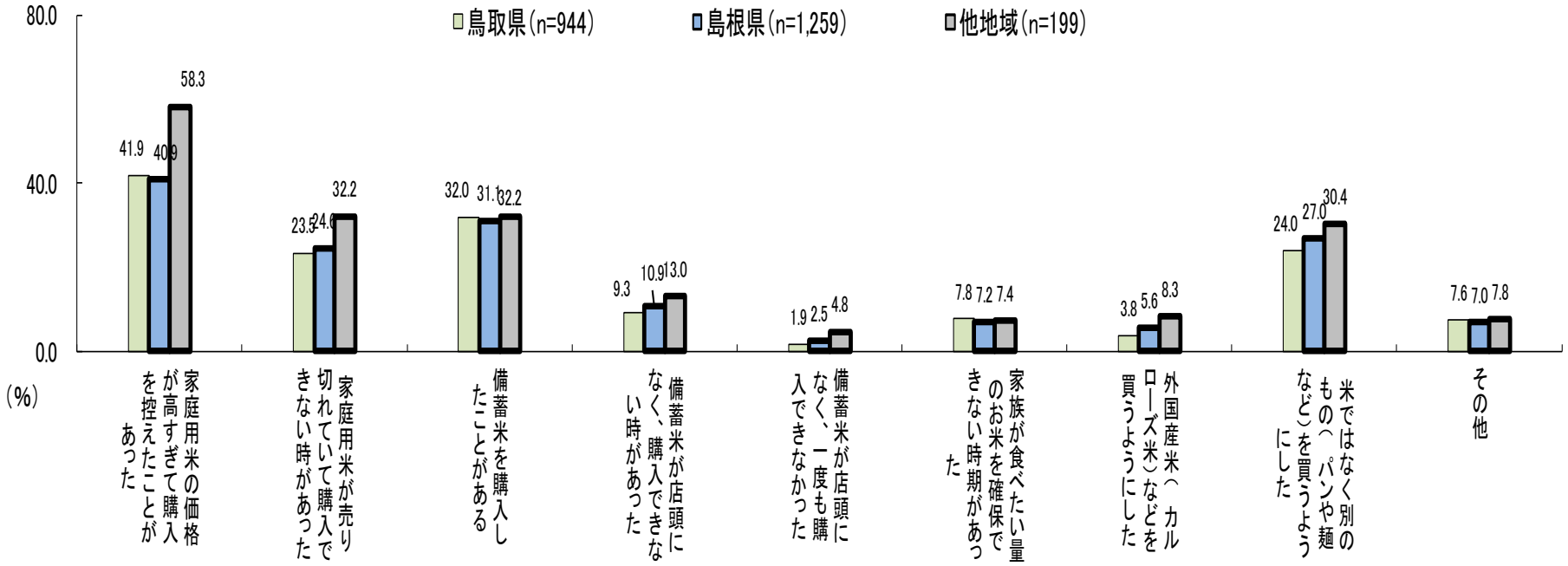


２－５．「令和のコメ騒動」の影響②

～山陰両県は、価格が高すぎて購入を控えた方が比較的少ない～

- 「購入行動に変化はあった」と回答した方に対して、変化の内容について尋ねたところ、「家庭用米の価格が高すぎて購入を控えたことがあった」と答える方は、他地域では58.3%であったのに対し、鳥取県では41.9%、島根県では40.9%となり、比較的少ないことがわかった。

図表２－６．「令和のコメ騒動」当時、どのような変化がありましたか。（複数回答）
【山陰両県と他地域との比較】



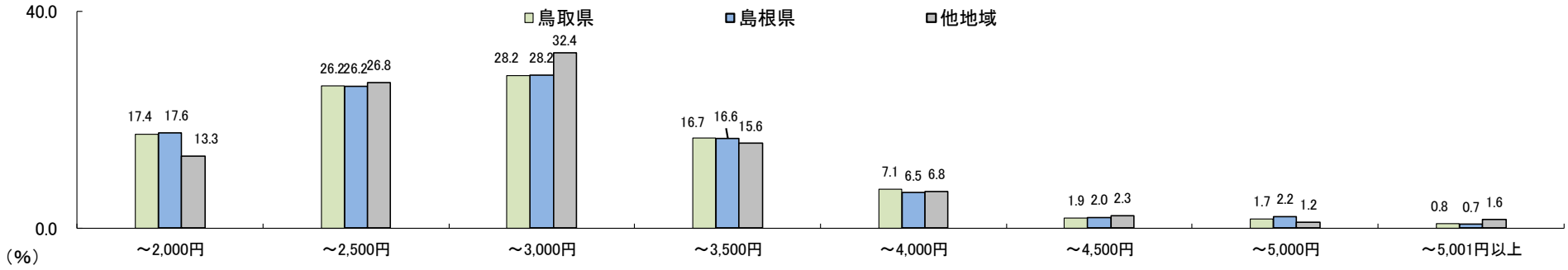
注：割合は、「「令和のコメ騒動」当時、米の購買行動に変化はあった」との回答を全体数として用いて計算

２－６．米の適正価格

～山陰両県は５kg 2,000円以下との回答が比較的多い～

- 米５kgの適正価格について尋ねたところ、「～2,000円」との回答は鳥取県が17.4%、島根県が17.6%である一方、他地域が13.3%となり、山陰両県で比較的多い結果となった。
- また、「～3,000円」との回答は鳥取県・島根県ともに28.2%に留まるなか、他地域では32.4%と比較的高い結果となり、山陰両県は低価格指向が比較的強いことが伺える。

図表２－７．あなたが適正だと思う５kgの家庭用米（備蓄米を除く）の価格
【山陰両県と他地域との比較】



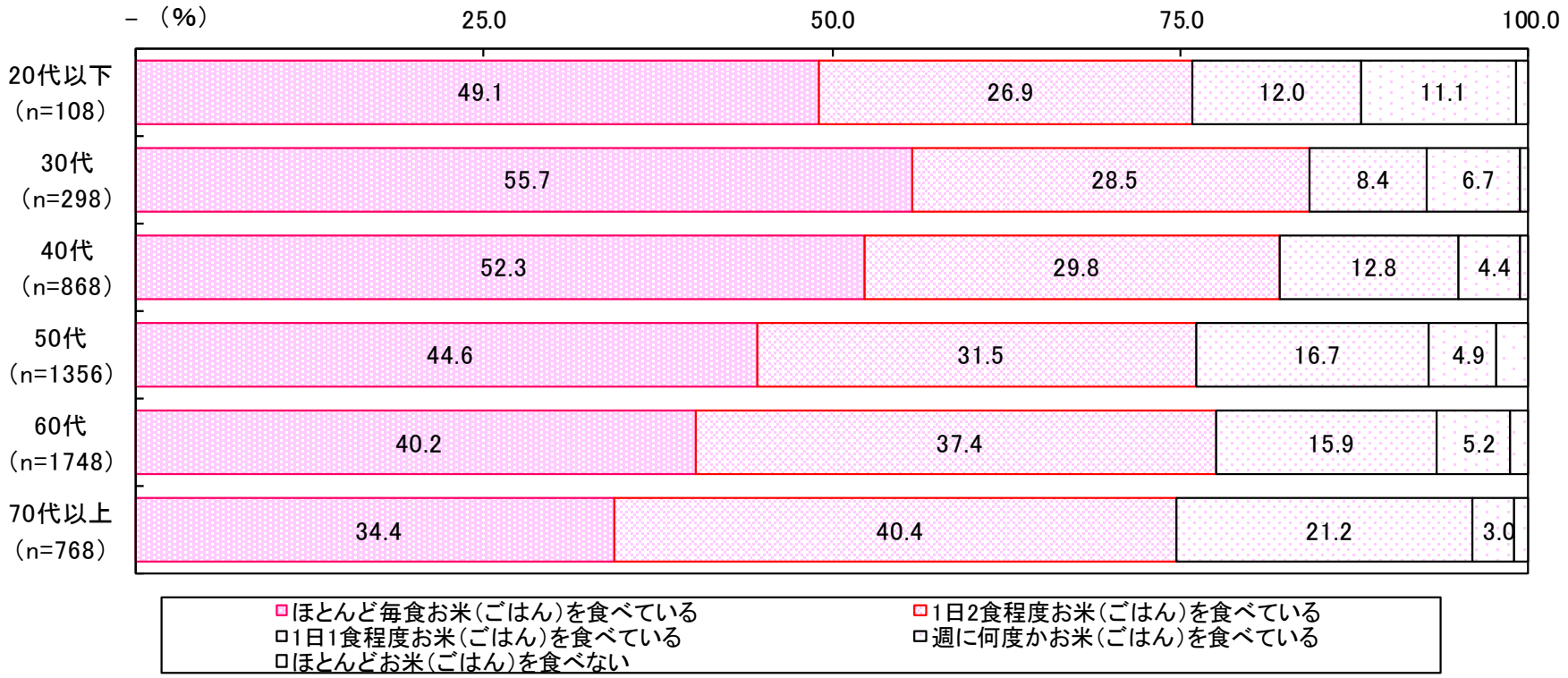
３．年代別の特徴
（山陰両県のみ集計）

３－１．お米（ごはん）を食べる頻度

～高齢な方ほど米を食べる頻度が減少する傾向～

- 米を食べる頻度を年齢別に比べたところ、「ほとんど毎食お米（ごはん）を食べている」の割合については、30代が55.7%であるのに対し、70代以上は34.4%と、年齢が高くなるにつれて割合が減少する傾向にある。
- 「１日１食程度お米（ごはん）を食べている」の割合は、70代以上が２割超と年代別で最も高い。

図表３－１．あなたの食生活のうち、お米（ごはん）を食べる頻度はどのくらいですか。
【山陰地域における年代別の比較】



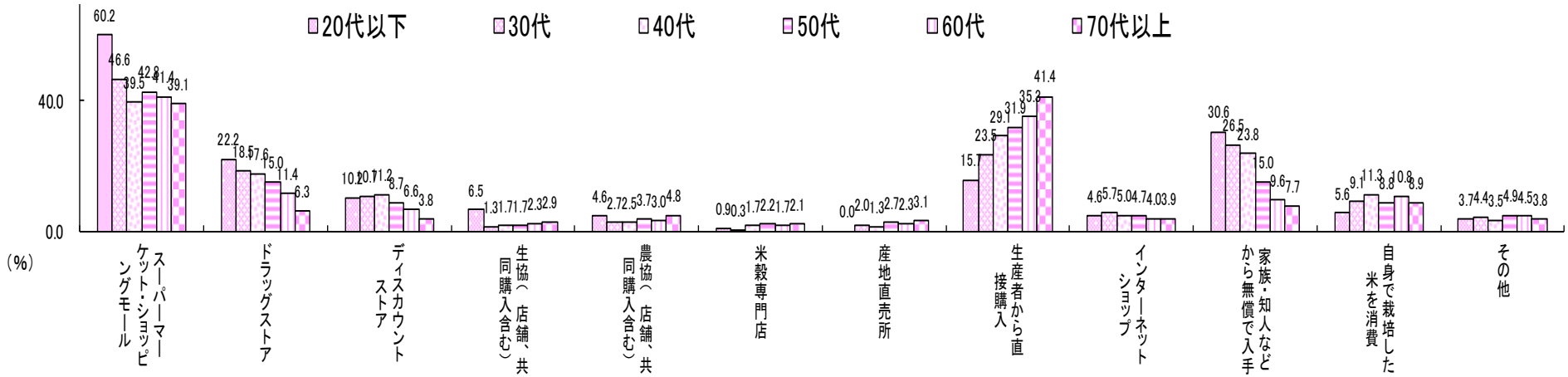
注：「お住まい」を問う質問について、「鳥取県」と「島根県」を選択した方のみを集計。他の都道府県は除く。以下、同じ。

３－２．お米の購入・入手先

～若年者層ほどスーパーマーケット・ショッピングモール、高齢者層ほど生産者から直接購入が多い～

- 購入・入手先をみると、「スーパーマーケット・ショッピングモール」は20代以下で60.2%、30代で46.6%となり若年者層ほど高い傾向がある。また、「家族・知人などから無償で入手」も20代以下で約３割と高い傾向がある。
- 一方、「生産者から直接購入」は70代以上が41.4%と最も高く、高齢者層ほど高い傾向がある。

図表３－２．普段どのようにお米を購入・入手していますか。（複数回答）
【山陰地域における年代別の比較】

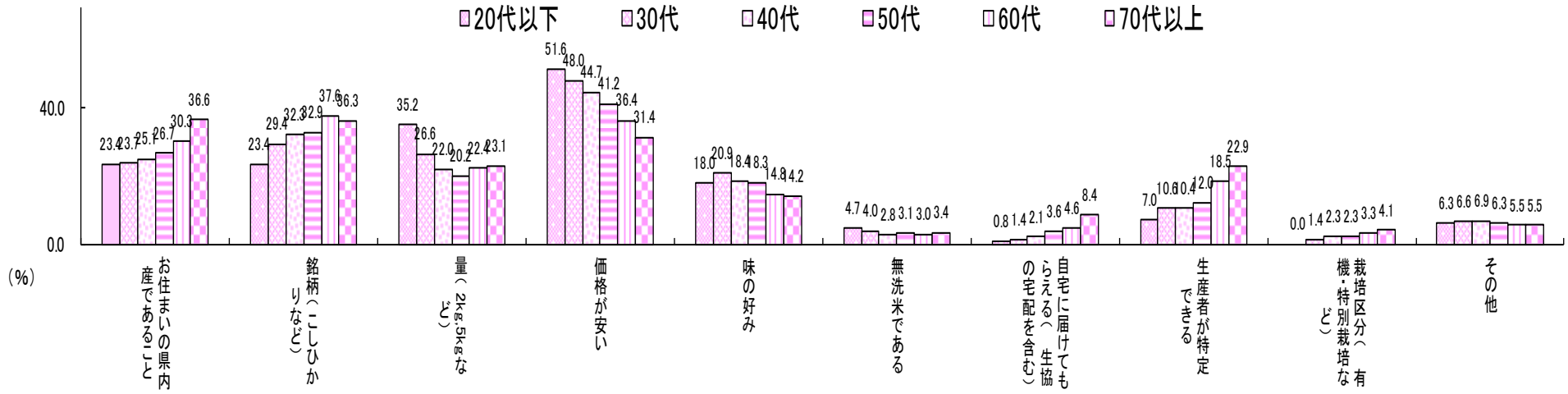


３－３．お米を買うときに重視すること

～若年者層は量と価格を重視し、高齢者層は県内産と生産者が特定できることを重視～

- お米を買うときに重視する点を比較すると、「価格が安い」は20代以下で51.6%、30代で48.0%、「量」も20代以下が35.2%となるなど、若年者層ほど高い傾向がある。
- 一方、「お住まいの県内産であること」は70代以上が36.6%、「生産者から特定できる」は70代以上が22.9%と最も高く、高齢者層ほど高い傾向がある。

図表３－３．お米を買うときに重視することを教えてください。（複数回答）
【山陰地域における年代別の比較】



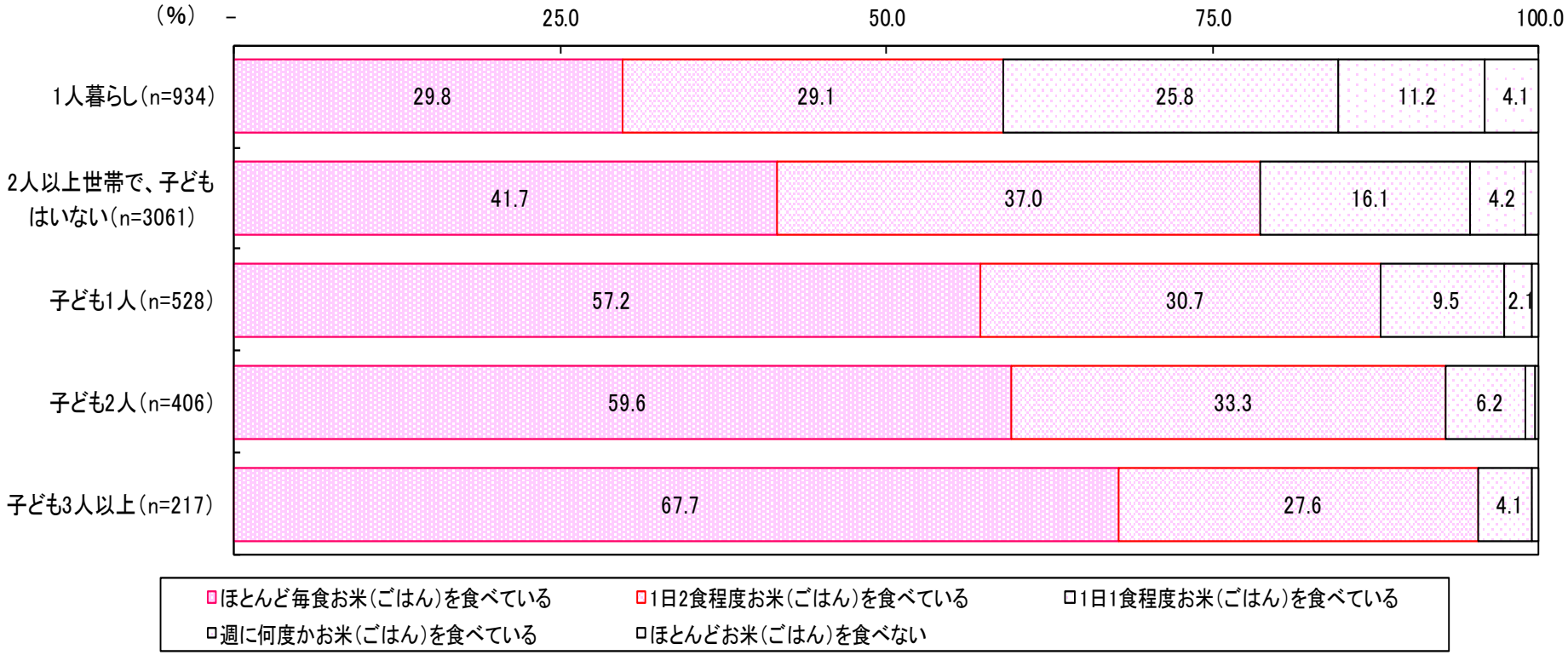
４．世帯構成別の特徴
（山陰両県のみ集計）

４－１．お米（ごはん）を食べる頻度

～子どもが多い世帯ほど米を食べる頻度が増加する傾向～

- 米を食べる頻度を世帯構成別に比べたところ、「ほとんど毎食お米（ごはん）を食べている」の割合については、２人以上世帯で子どもがいない世帯が41.7%であるのに対し、子どもが３人以上いる世帯は67.7%と、子どもの数が多い世帯ほど、割合が大きくなる傾向にある。

図表４－１．あなたの食生活のうち、お米（ごはん）を食べる頻度はどのくらいですか。
【山陰地域における世帯構成別の比較】



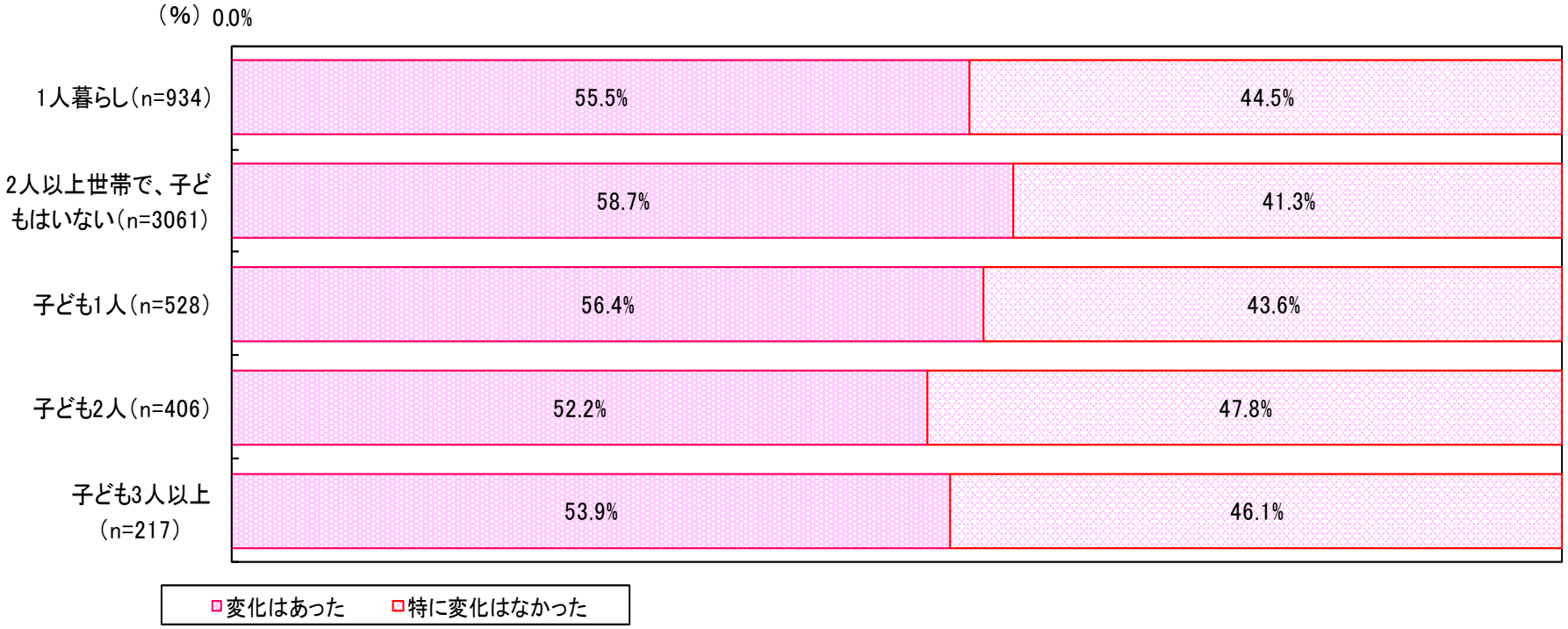
注１：本集計における子どもとは、18歳未満の同居家族のことを指す。以下、同じ。
注２：「お住まい」を問う質問について、「鳥取県」と「島根県」を選択した方のみを集計。他の都道府県は除く。以下、同じ。

４－２．「令和のコメ騒動」の影響①

～子育て世帯において顕著な影響は見られない～

- 「令和のコメ騒動」当時、米の購買行動に変化があったかを問う質問について、世帯構成別に比べたところ、「変化はあった」との回答がいずれの世帯でも５割超となり、大きな差異は見られなかった。
- 特に、子どもと同居する子育て世帯においても、「変化はあった」との回答が５割、「特に変化はなかった」との回答も５割となり、他の世帯と比較しても顕著な影響は見られなかった。

図表４－２．「令和のコメ騒動」当時、米の購買行動に変化はありましたか。
【山陰地域における世帯構成別の比較】

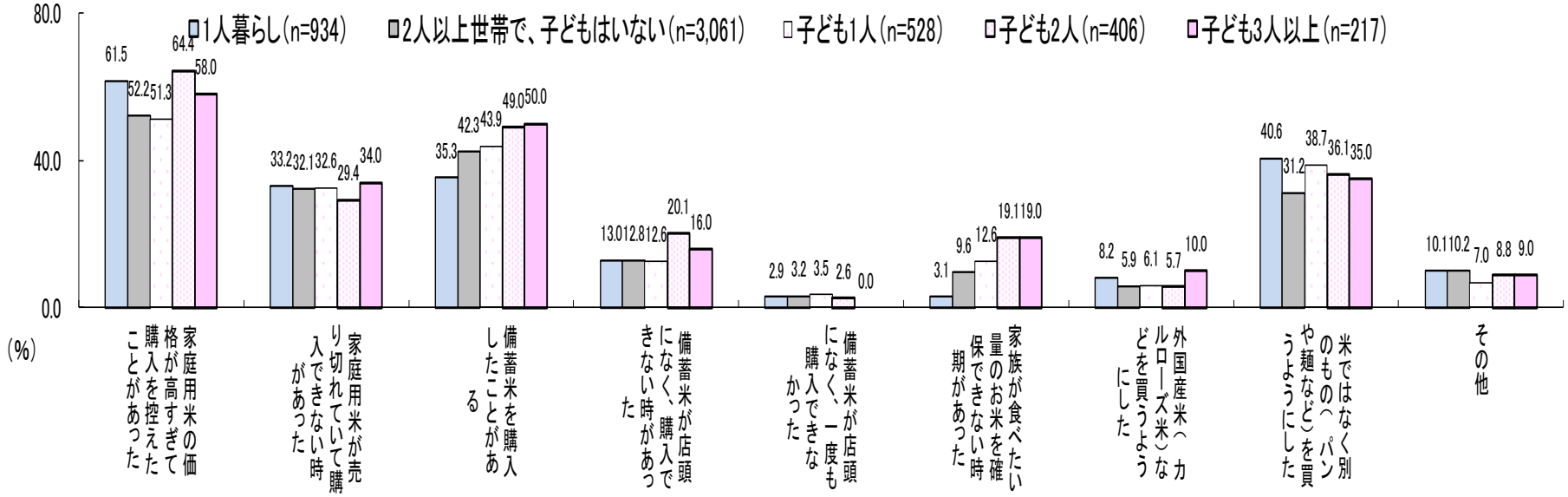


４－３．「令和のコメ騒動」の影響②

～子どもが多い世帯ほど備蓄米を購入～

- 「令和のコメ騒動」当時の具体的な変化の内容を問う質問について、世帯構成別に比べたところ、「備蓄米を購入したことがある」との回答が、２人以上世帯で子どもはいない世帯が42.3%である一方、子どもが3人以上の世帯は50.0%と、子どもが多い世帯ほど備蓄米を購入していたことが分かった。
- 一方、１人暮らしの世帯は「米ではなく別のものを買うようにした」との回答が40.6%であり、米ではなくパンや麺への切り替えが起こりやすいことが伺える。

図表４－３．「令和のコメ騒動」当時、どのような変化がありましたか。（複数回答）
【山陰地域における世帯構成別の比較】



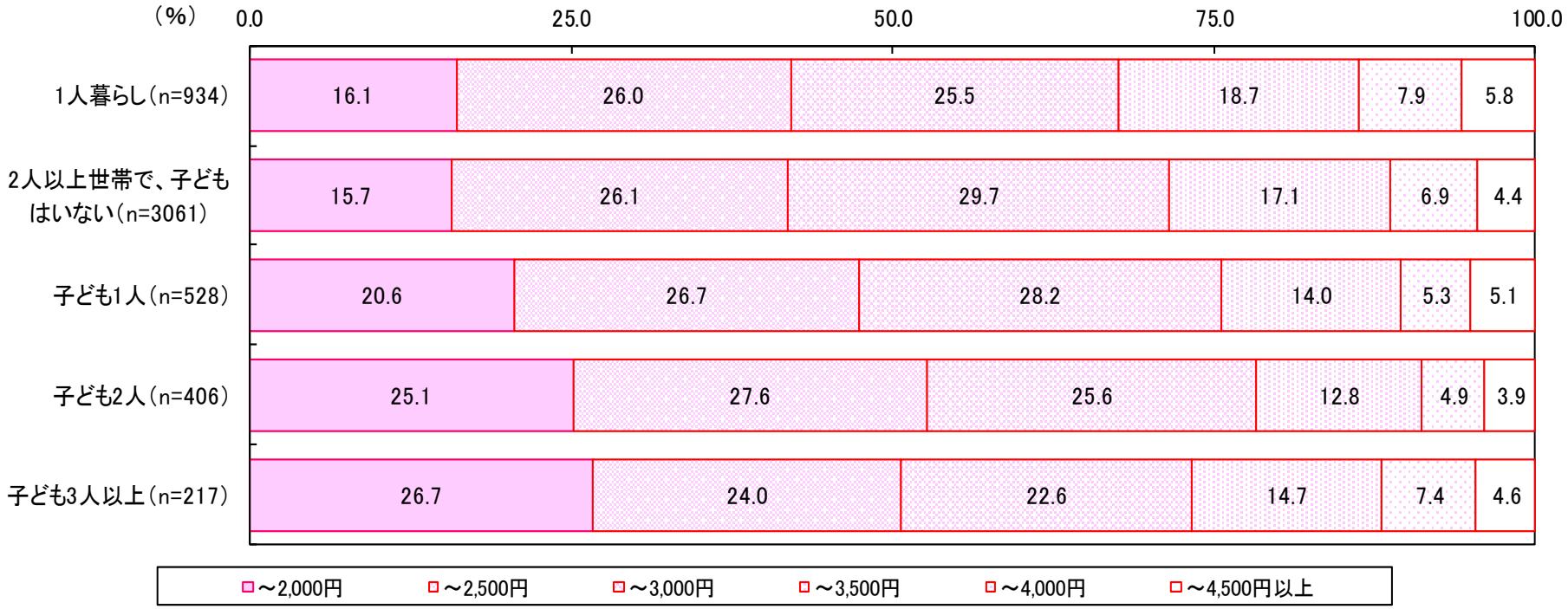
注：割合は、「「令和のコメ騒動」当時、米の購買行動に変化はあった」との回答を全体数として用いて計算

４－４．米の適正価格

～子どもが多い世帯ほど５kg 2,000円以下との回答が多い～

- 米５kgの適正価格について尋ねたところ、「～2,000円」との回答が２人以上世帯で子どもがいない世帯は15.7%である一方、子ども３人以上の世帯は26.7%となっており、子どもが多い世帯ほど、低価格志向が強まっている。

図表４－４．あなたが適正だと思う５kgの家庭用米（備蓄米を除く）の価格
【山陰地域における世帯構成別の比較】



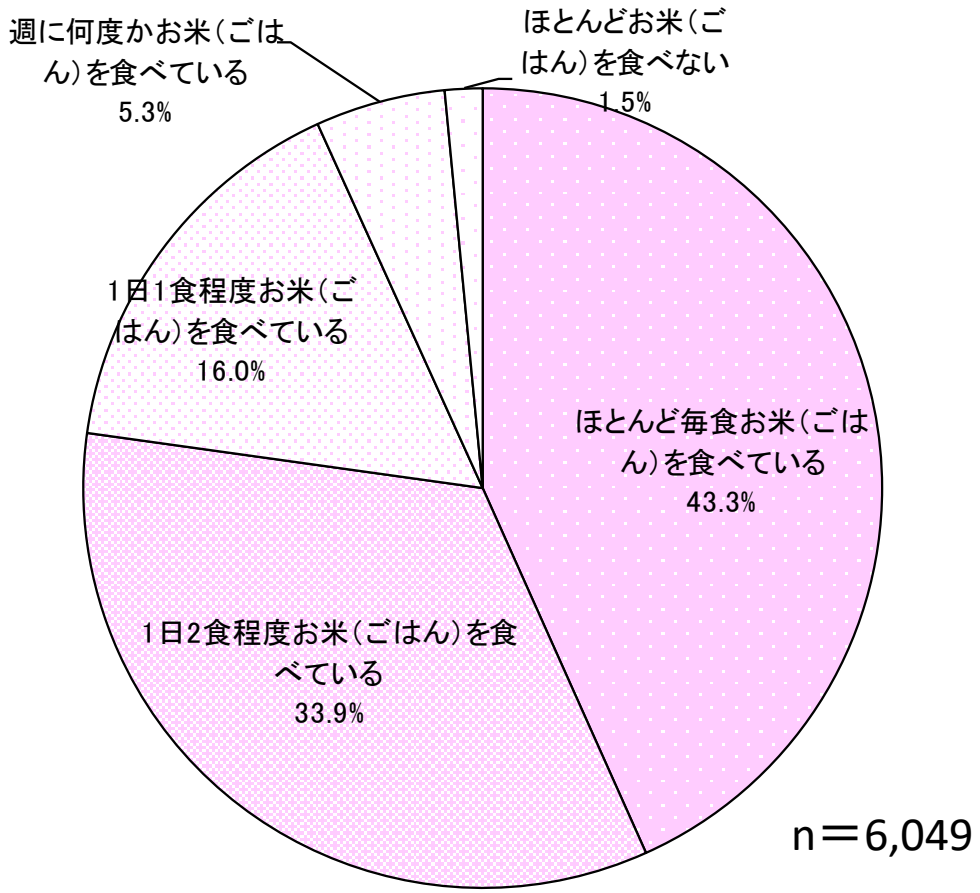
５.（参考）全体集計

５－１．お米（ごはん）を食べる頻度

～１日２食以上お米（ごはん）を食べるとの回答が約８割～

- お米（ごはん）を食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎食」が43.3%、「１日２食程度」が33.9%、「1日1食程度」が16.0%となった。

図表５－１．あなたの食生活のうち、お米（ごはん）を食べる頻度はどのくらいですか。

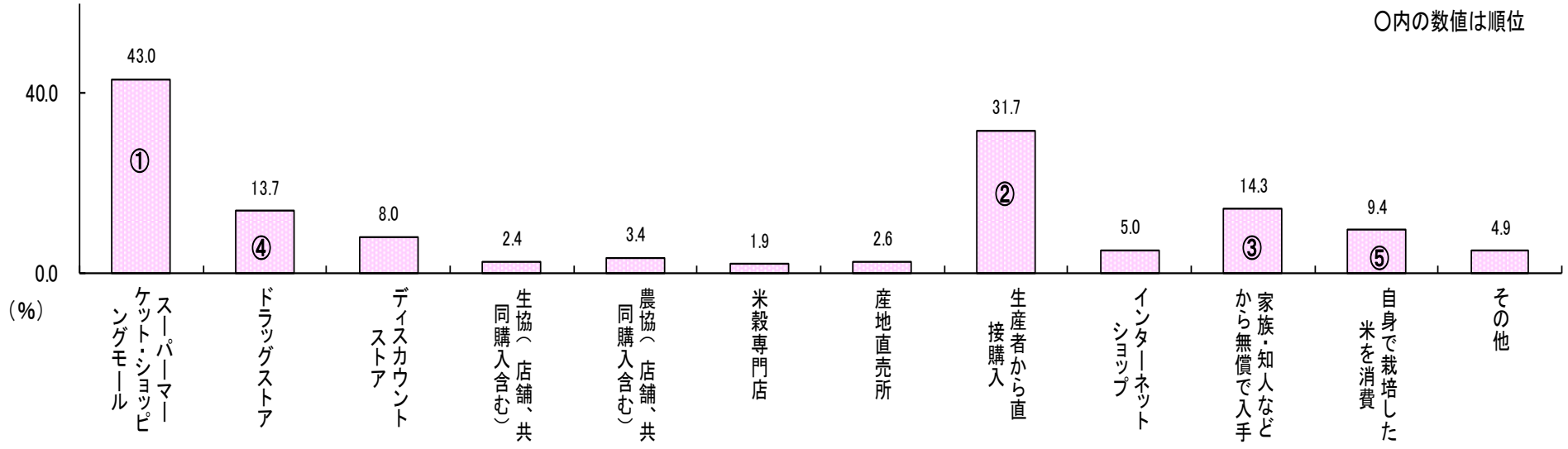


５－２．お米の購入・入手先

～３割が生産者から直接購入～

- お米の購入・入手先を尋ねると、最も多かったのは「スーパーマーケット・ショッピングモール」で43.0%であった。次いで多いのは「生産者から直接購入」で31.7%、「家族・知人などから無償で入手」で14.3%であった。

図表５－２．普段どのようにお米を購入・入手していますか。（複数回答）

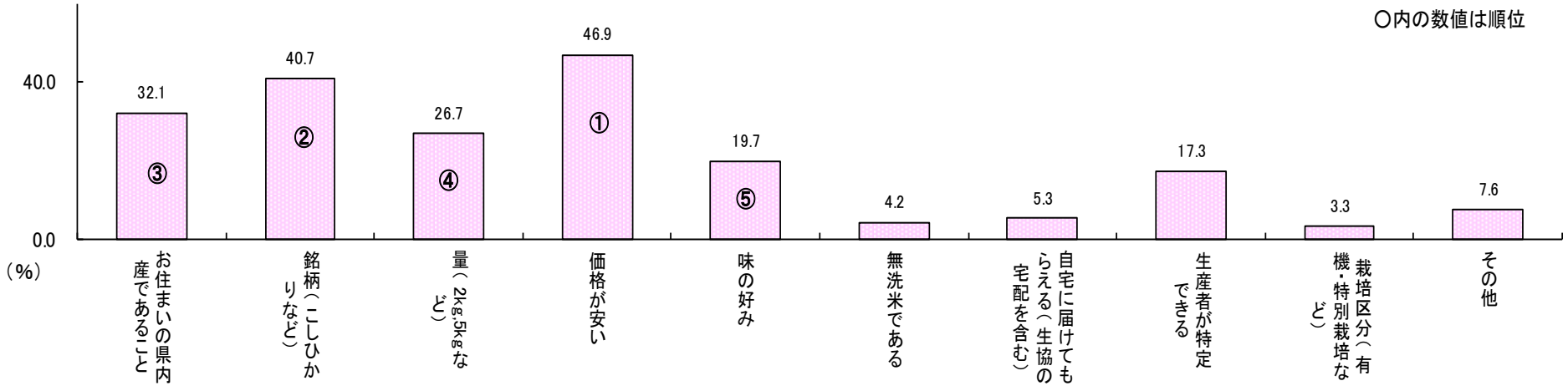


５－３．お米を買うときに重視すること

～価格のほかにも、銘柄や県内産を重視～

- 最も多かった回答は、「価格が安い」で46.9%であったが、次いで「銘柄」40.7%、「お住まいの地域の県内産であること」32.1%と続いた。

図表５－３．お米を買うときに重視することを教えてください。（複数回答）

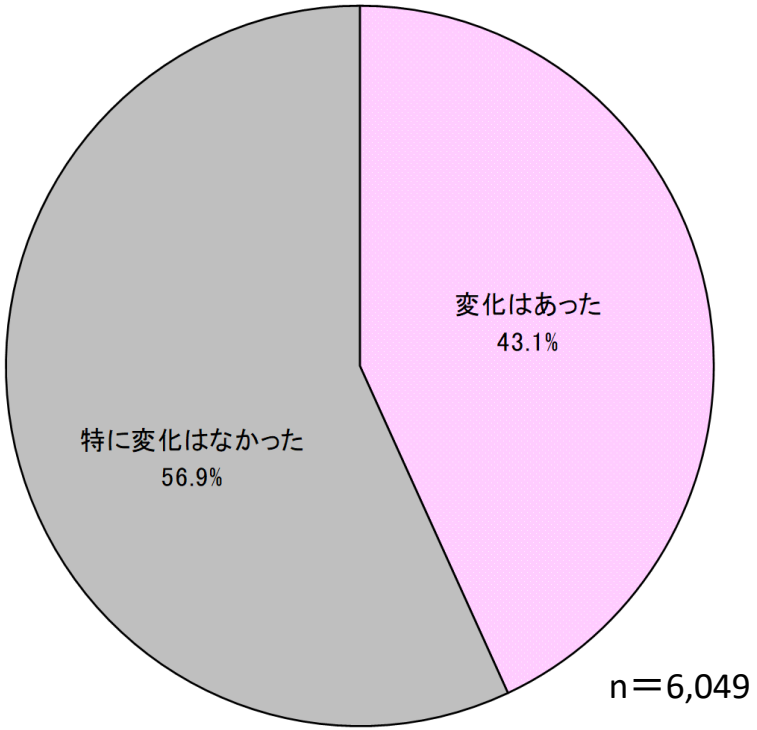


５－４．「令和のコメ騒動」の影響①

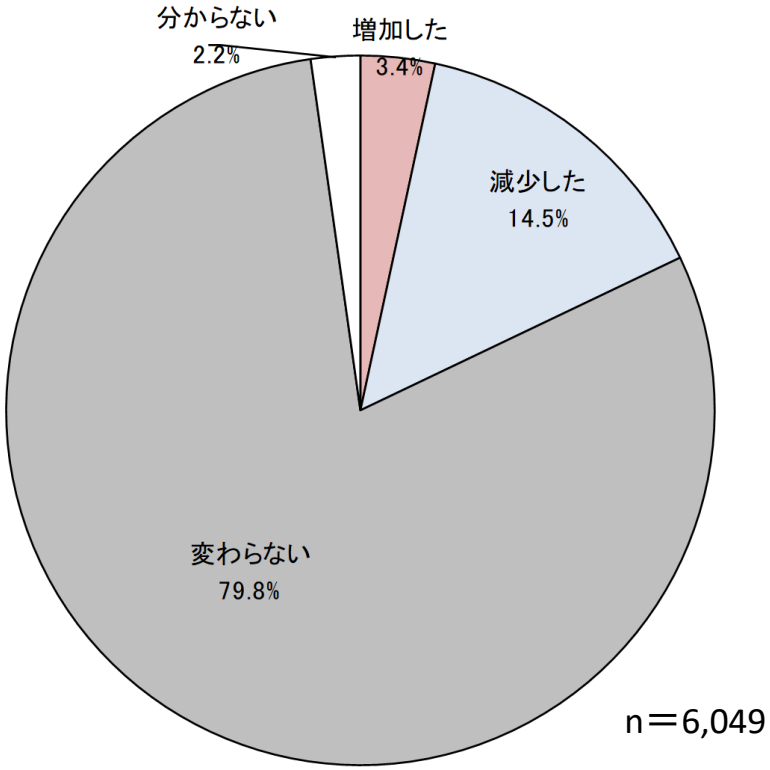
～購買行動に変化があったとの回答は４割、食べる頻度は変わらないとの回答は８割～

- 「令和のコメ騒動」当時に購買行動の変化があったか尋ねたところ、「変化はあった」との回答が43.1%であった。
- 「令和のコメ騒動」の経験を経て、現在お米を食べる頻度が変化したか尋ねたところ、「変わらない」が79.8%であった。「減少した」は14.5%であった。

図表５－４．「令和のコメ騒動」当時、米の購買行動に変化はありましたか。



図表５－５．「令和のコメ騒動」の経験を経て、現在お米を食べる頻度が変化しましたか。

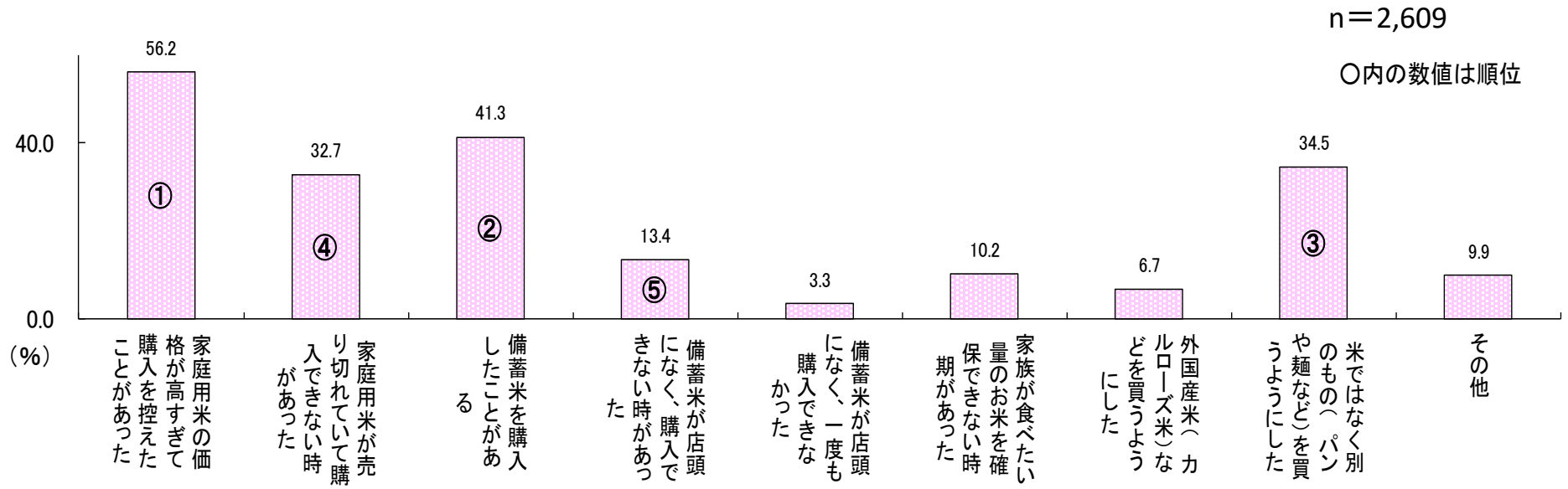


５－５．「令和のコメ騒動」の影響②

～価格が高すぎて購入を控えたことがあるとの回答は２割弱～

- 「購入行動に変化はあった」と回答した方に対して、変化の内容について尋ねたところ、「価格が高すぎて購入を控えた」が56.2%、「備蓄米を購入したことがある」が41.3%、「別のもの（パンや麺など）を買うようにした」が34.5%であった。

図表５－６．「令和のコメ騒動」当時、どのような変化がありましたか。（複数回答）



注：割合は、「「令和のコメ騒動」当時、米の購買行動に変化はあった」との回答を全体数として用いて計算

５－６．米の適正価格

～５kg 3,000円以下との回答が７割超～

■ 米５kgの適正価格について尋ねたところ、最も多かった回答は「～3,000円」で28.4%であった。次いで、「～2,500円」が26.1%、「～2,000円」が17.5%と、3,000円以下を適正とする回答が合計で72.0%であった。

図表５－７．あなたが適正だと思う５kgの家庭用米（備蓄米を除く）の価格

